

関係機関長 殿

沖縄県病害虫防除技術センター所長  
(公印省略)

病害虫発生予察特殊報について  
平成22年度病害虫発生予察特殊報第3号を公表したので送付します。

平成22年度病害虫発生予察特殊報第3号

1 害虫名 : ミツユビナミハダニ

2 学 名 : *Tetranychus evansi* (Baker & Pritchard)

3 対象作物名 : ナス

4 発生地域 : 沖縄県うるま市、与那原町、宮古島市、石垣市

5 発生確認の経緯

- (1) 平成22年10月、石垣市大浜の露地ナスからミツユビナミハダニと思われるハダニが採集されたため、茨城大学農学部後藤哲雄教授に同定を依頼したところ、ミツユビナミハダニであると確認された。
- (2) 上記結果を受け、11～12月に県内各農業改良普及センター、農林水産振興センター農業改良普及課及び農業研究センターと合同で県内のナス科作物圃場、家庭菜園及び種苗会社において発生調査を行った。沖縄島、宮古島、伊良部島、石垣島の4島を対象に、ナス37圃場、ピーマン34圃場、トマト15圃場、ミニトマト2圃場、シマトウガラシ2圃場、パプリカ1圃場を調査したところ、うるま市豊原の施設ナス1圃場、与那原町与那原の家庭菜園のナス1か所および宮古島市伊良部島の家庭菜園のナス2か所から本種が確認された。
- (3) 雑草のテリミノイヌホオズキでは、うるま市の発生圃場周辺および中城村で発生が確認された。
- (4) 本種は、国内においては平成13年に大阪府のイヌホオズキで初めて発見され、京都府、兵庫県、東京都、鹿児島県及び高知県のナス科植物から確認されている。また、本県では平成20年に伊良部島の雑草から確認されていた。

6 形態及び生態

体色は、雌はくすんだ淡橙～濃橙色(写真1)、雄は白～淡橙色である。体長は、雌成虫で0.6mm前後、雄で0.47mm前後である。休眠性は持たない。*Tetranychus*(ナミハダニ)属の中でも非常に高い増殖能力を持つ。本種はナス科植物の葉に寄生し(写真2)、寄生部位を著しく白化させ、高密度になると植物を枯死させることもある。

7 寄主植物

ミニトマト、ナス、イヌホオズキ、テリミノイヌホオズキ、ワルナスビなどのナス科植物。

8 防除対策

- (1) 育苗時に葉裏等をよく観察し、本種の寄生が無いか確認する。
- (2) 圃場周辺のナス科雑草は本種の発生源となるため、除草を徹底する。
- (3) 収穫終了後の株や残渣は本種の発生源となる可能性があるため、早めに処分する。
- (4) ナスのハダニ類に登録のある薬剤の多くは本種に対しても高い効果を示すため、これらを利用して早期に防除を行う。



写真1. ミツユビナミハダニ雌成虫



写真2. 被害葉(ナス)

---

詳しくは沖縄県病害虫防除技術センターにお問い合わせ下さい

TEL: 098-886-3880、098-886-0227

ホームページアドレス: <http://www3.pref.okinawa.jp/site/view/cateview.jsp?cateid=119>